

コア項目

|      |                                                                                                                                               |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学習目標 | 学習者分析やニーズ分析を行ったか？                                                                                                                             |
|      | 学習目標は、「目標行動」の形で記述しているか？【 <a href="#">クイズ 1-①</a> 】【 <a href="#">クイズ 1-②</a> 】                                                                 |
|      | 学習目標には、「評価条件」も明記されているか？【 <a href="#">クイズ 1-①</a> 】【 <a href="#">クイズ 1-②</a> 】                                                                 |
|      | 学習目標には、「合格基準」も明記されているか？【 <a href="#">クイズ 1-①</a> 】【 <a href="#">クイズ 1-②</a> 】                                                                 |
| 評価方法 | 前提テストはあるか？前提テストを実施しない場合は、不要と判断した理由を説明できるか？【 <a href="#">クイズ 2-①</a> 】【 <a href="#">クイズ 2-②</a> 】                                              |
|      | 事前テストはあるか？事前テストを実施しない場合は、不要と判断した理由を説明できるか？【 <a href="#">クイズ 2-①</a> 】【 <a href="#">クイズ 2-②</a> 】                                              |
|      | 事後テストはあるか？（カークパトリック 4 段階評価のレベル 2）【 <a href="#">クイズ 2-①</a> 】【 <a href="#">クイズ 2-②</a> 】【 <a href="#">クイズ 5-①</a> 】【 <a href="#">クイズ 5-②</a> 】 |
|      | 事後テストは、学習目標を達成したことが分かる内容になっているか？                                                                                                              |
| 教授方略 | 課題分析を行ったか？【 <a href="#">クイズ 3-①</a> 】【 <a href="#">クイズ 3-②</a> 】                                                                              |
|      | 教材の導入部分に、学習目標及び教材の使用方法を記載したか？                                                                                                                 |
|      | 事後テストの前に、練習の機会を与えたか？                                                                                                                          |
|      | 教材の形態の特性を踏まえた上で、適切だと思う形態を選択したか？                                                                                                               |
| 教材改善 | エキスパートレビューを実施あるいは予定しているか？【 <a href="#">クイズ 4-①</a> 】【 <a href="#">クイズ 4-②</a> 】                                                               |
|      | 学習者検証の原理に基づく形成的評価を実施あるいは予定しているか？【 <a href="#">クイズ 4-①</a> 】【 <a href="#">クイズ 4-②</a> 】                                                        |
|      | 学習後のアンケート調査を実施あるいは予定しているか？（カークパトリック 4 段階評価のレベル 1）【 <a href="#">クイズ 5-①</a> 】【 <a href="#">クイズ 5-②</a> 】                                       |
|      | 学習後のフォローアップ調査を実施あるいは予定しているか？（カークパトリック 4 段階評価のレベル 3）【 <a href="#">クイズ 5-①</a> 】【 <a href="#">クイズ 5-②</a> 】                                     |

オプション項目

|                          |                                                                                     |                                                                                    |
|--------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| (ARCS モデル)<br>学習意欲を高める工夫 | 注意<br>(Attention)<br><br><a href="#">【クイズ 6-①】</a><br><a href="#">【クイズ 6-②】</a>     | (A-1 知覚的喚起)学習者の関心を引き、興味を持ってもらえそうか？                                                 |
|                          |                                                                                     | (A-2 探求心の喚起)学習者の探求心や好奇心を刺激しているか？                                                   |
|                          |                                                                                     | (A-3 変化性)学習者の注意を維持できそうか？                                                           |
|                          | 関連性<br>(Relevance)<br><br><a href="#">【クイズ 7-①】</a><br><a href="#">【クイズ 7-②】</a>    | (R-1 目的指向性)学習者のニーズに応えるものになっており、学習者自身もゴールを理解できる作りになっているか？                           |
|                          |                                                                                     | (R-2 動機との一致)学習者の動機や価値観、興味に結びついているか？                                                |
|                          |                                                                                     | (R-3 親しみやすさ)学習者の経験や既有知識、スキルに結びついているか？                                              |
|                          | 自信<br>(Confidence)<br><br><a href="#">【クイズ 8-①】</a><br><a href="#">【クイズ 8-②】</a>    | (C-1 学習要件)学習目標や評価基準を分かりやすい言葉で示して学習者の不安を減らし、成功への期待感を持たせられたか？                        |
|                          |                                                                                     | (C-2 成功の機会)練習の機会を用意するなどして成功の機会を作り、学習者が自信を高められるようにしたか？                              |
|                          |                                                                                     | (C-3 個人的なコントロール)学習者は、学習の成功を自身の努力や能力の結果だと思えるか？                                      |
|                          | 満足感<br>(Satisfaction)<br><br><a href="#">【クイズ 9-①】</a><br><a href="#">【クイズ 9-②】</a> | (S-1 内発的な強化)努力と達成に対する学習者の肯定的な気持ちを強化するようなフィードバックを与えたり、更に発展的な内容を扱った教材や参考文献を提示したりしたか？ |
|                          |                                                                                     | (S-2 外発的な報酬)学習者の成功に対して、外発的な報酬を与えたか？                                                |
|                          |                                                                                     | (S-3 公平感)学習目標、教材内容、練習問題、テストは整合性を保っており、評価は公平であったか？                                  |

## クイズ 1. 学習目標の明確化 3 要素

### クイズ 1-①

Qx. 次の学習目標の内, 学習目標を明確化させるための 3 要素である「目標行動」「評価条件」「合格基準」のすべてを含んでいる学習目標をすべて選びなさい。

Ax.

- 1. データベース A で検索した参考文献(書誌情報と本文 PDF)を文献管理ツール B にインポートし, 所定のフォルダに移動することができる。
- 2. データベース C の様々なアラート機能を理解し, 何も見ずに設定できるようになる。
- 3. データベース D, データベース E, データベース F の特徴や違いが分かる。さらに, どのような時にどのデータベースを使えばよいのかが分かる。
- 4. 授業の参考文献リストの書誌事項を何も見ずに正確に読み取り, その中から OPAC の検索語を正しく選ぶことができる。

正解です。/不正解です。

1. ×

「目標行動」= OK

「評価条件」= NG

「合格基準」= NG

例えば, 評価条件として「マニュアルを見ずに」, 合格基準として「1 件あたり 5 分以内に行う」などを追加するとより明確な学習目標になります。

改善例) データベース A で検索した参考文献(書誌情報と本文 PDF)を文献管理ツール B にインポートし, 所定のフォルダに移動することができる。この作業をマニュアルを見ずに, 1 件あたり 5 分以内に行えるようになる。

2. ×

「目標行動」= OK

「評価条件」= OK(「何も見ずに」が評価条件)

「合格基準」= NG(「様々なアラート機能を理解」とあるようですが, 何ができたら合格かは不明確)

例えば、合格基準として「search アラートと journal アラートを設定できる」などを追加するとより明確な学習目標になります。

改善例) データベース C のアラート機能を理解し、何も見ずに search アラートと journal アラートを設定できるようになる。

### 3. ×

「目標行動」= NG (「分かる」は目標行動ではありません)

「評価条件」= NG (評価条件の記載がありません)

「合格基準」= NG (合格基準の記載がありません)

例えば、目標行動として「(特徴や違いについて)説明できる」や「(データベースを)選択できる」に言い換えるとより明確になります。さらに、例えば、評価条件として「マニュアルを見ながら」を追加し、合格基準として「最適な(データベースを選択できる)」「(つまり、不適切なデータベースを選択したら不合格ということ)を追加すると 3 要素を満たしたことになります。

改善例) データベース D, データベース E, データベース F のそれぞれの特徴や違いについて、マニュアルを見ながら説明することができる。さらに、必要に応じて最適なデータベースを選択することができる。

### 4. ○

「目標行動」= OK

「評価条件」= OK

「合格基準」= OK (「正確に」や「正しく」が合格基準。事後テストでは満点が合格基準ということ)

学習目標の明確化 3 要素についての解説は、[こちら](#)

クイズ 1-②

Qx. 大学生の検索行動を観察した結果、蔵書目録データベース OPAC を使う際に、書名や誌名ではなく、章タイトルや論文名で検索してしまう大学 1 年生が多いことが分かった。そこで、書誌事項が与えられた際に、書誌事項の各項目を正しく読み取り、どの項目が OPAC の検索語になり得るのか判断できるようになるような教材を作成したいと考えた。この教材の学習目標を「参考文献リストを見てみよう！～効率的に資料検索を行うために～」とした場合、以下の指摘の内で正しいものをすべて選びなさい。

Ax.

- 1. 「参考文献リストを見(る)」は、学習者の行動ではあるが、教材が目指すべき目標行動とはいえ、修正が必要である。
- 2. 「～効率的に資料検索を行うために～」という副タイトルが付いており、学習者に興味や関心を持ってもらえるような工夫がなされている。このように学習者の Attention を引き付ける学習目標は、目標行動という点において適切である。
- 3. 何を(「参考文献リストを」)見るかについての具体的な記載があるため、評価条件は適切である。
- 4. 合格基準についての記載がないため、例えば、参考文献リストから「資料名の部分だけを正しく選べれば合格」なのか、「資料名だけでなくすべての項目を正しく理解できていれば合格」なのかが分からない。合格基準の明確化が必要である。
- 5. この学習目標は、「参考文献リストを見てみよう！」の部分が目標行動、「効率的に資料検索を行う」部分が評価条件と合格基準を示しているといえる。

正解です。/不正解です。

- 1. ○
- 2. ×
- 3. ×
- 4. ○
- 5. ×

学習目標の明確化 3 要素についての解説は、[こちら](#)

## クイズ 2.3 種類のテスト

### クイズ 2-①

Qx. 前提テスト, 事前テスト, 事後テストに関する以下の説明の内, 正しいものをすべて選びなさい。

Ax.

- 1. 3 種類のテストの内, 教材学習前に行うのは前提テストと事前テスト, 教材学習後に行うのは事後テストである。
- 2. 論理演算子を使った検索式の立て方に関する教材を作成した。事前テストでは論理積や論理和といった基本的な検索式に関する問題を出題した。事後テストでは教材の学習成果を測るために事前テストよりも難しい問題(例えば, 複数の論理演算子の組み合わせ)を出題し, 学習者に学習の達成感を感じてもらったようにした。
- 3. 前提テストに合格した者は, すでに教材の学習目標を達成していると考えられるため, 教材を使った学習は不要である。
- 4. 事前テストは, 事前に身に付けておくべき知識やスキルが身に付いているかどうかを測るテストであり, 事前テストに不合格の者のみが学習に取り組むことになる。

正解です。/不正解です。

- 1. ○
- 2. ×
- 3. ×
- 4. ×

3 種類のテストについての解説は, [こちら](#)

## クイズ 2-②

Qx. 前提テスト, 事前テスト, 事後テストに関する以下の説明の内, 正しいものをすべて選びなさい。

Ax.

- ☐1. 前提テスト, 事前テスト, 事後テストの内, 教材学習前に行うのは前提テストのみである。
- ☐2. ILL の依頼の方法を学ぶ教材を作成した。これは, 事前に文献検索の仕方を知っている者のみを対象にした教材なので, 事前テストとして文献検索の知識を問う文章を教材の冒頭に挿入した。
- ☐3. 事前テストと事後テストは, 実施の目的やタイミングは異なるが, 共に学習目標を達成しているかどうかを測るためのテストといえるので, 同レベルの問題を出題することにした。
- ☐4. 事後テストとは, 教材学習後しばらく経ってからも知識やスキルが定着しているかどうかを確認するためのテストである。

正解です。/不正解です。

- 1. x
- 2. x
- 3. o
- 4. x

3 種類のテストについての解説は, [こちら](#)

### クイズ 3. 課題分析

#### クイズ 3-①

Qx. 課題分析の 1 つの手段である階層分析について, 最も正しい説明を一つ選びなさい。

Ax.

- ☐1. ゴールから順番に下位の学習目標を書き出していく。
- ☐2. 学習者が一番最初に学ばなければならない内容を起点に, それよりも高度な学習目標を積み重ねていき, 最終的な学習目標につながるように分析を行う。
- ☐3. 学習を開始する前の前提条件(入口)と, 学習のゴール(出口)を明らかにした後, その入口と出口の間にどのような学習活動が必要か, まず順不同に可能な限り多く書き出してからそれらの配列を検討する。

正解です。/不正解です。

- 1. ○
- 2. ×
- 3. ×

課題分析についての解説は, [こちら](#)



クイズ 3-②

Qx. 「複数の論理演算子を用いた検索式を立てることができる」ことを最終の学習目標として教材を作成する場合、課題分析の 1 つの方法である階層分析を行う手順として最も適切だと考えられるものを一つ選びなさい。

Ax.

- 1. 最終の学習目標を起点に、その目標を達成するための前提条件「1 つの論理演算子を用いた検索式を立てることができる」を書き出し、更にその前提条件となる「AND 検索, OR 検索, NOT 検索の意味を説明できる」を書き出していくように、最終目標から遡って分析を行う。
- 2. 最終の学習目標を達成するためには、学習の一番初めに論理演算子について理解しなければならない。このように、最初に習得すべきスキルを起点にして、内容が徐々にレベルアップしていくように分析を行う。
- 3. 最終の学習目標にたどり着くためには、AND 検索や OR 検索の意味を説明できるようになる必要があるし、複数の論理演算子を組み合わせる前に一つの論理演算子を正しく使えるようになる必要がある。このように、学ぶべき内容をとにかくたくさん書き出すところから分析を始める。なお、学ぶべき内容を書き出す作業は、可能であれば複数人で行うことが望ましい。

正解です。/不正解です。

- 1. ○
- 2. ×
- 3. ×

課題分析についての解説は、[こちら](#)

#### クイズ 4. 教材作成時の評価と改善

##### クイズ 4-①

Qx. 大学 1 年生向けに文献管理ツールに関する教材を作った。この教材の評価を行いたいと考えたとき、学習者検証の原理に基づく形成的評価として最も適切だと考えられるものは次の内どれか。

Ax.

- ☐1. 文献管理ツールを使ったことがない大学 1 年生に教材を試用してもらい、学習が成立するか評価を行う。
- ☐2. 文献管理ツールの使い方に詳しいほかの図書館員に教材を確認してもらい、記載内容に間違いがないか評価を行う。
- ☐3. 文献管理ツールを普段使っている教員に協力してもらい、専門家の視点から学生のための教材として適切かどうか評価を行う。

正解です。/不正解です。

- 1. ○
- 2. ×
- 3. ×

教材作成時の評価と改善についての解説は、[こちら](#)

クイズ 4-②

Qx. 文献の入手を担当している秘書のための教材を作った。この教材の評価を行いたいと考えたとき、学習者検証の原理に基づく形成的評価として最も適切だと考えられるものは次の内どれか。

Ax.

- 1. 文献の入手方法に詳しくない秘書に教材を使ってもらい、学習目標を達成したかどうか評価を行う。
- 2. 文献の入手方法に詳しいほかの図書館員に教材を見てもらい、記載内容に間違いがないか評価を行う。
- 3. 文献の入手を秘書に依頼している教員に教材を確認してもらい、教材の内容が教員の要望とマッチしているか評価を行う。

正解です。/不正解です。

- 1. ○
- 2. ×
- 3. ×

教材作成時の評価と改善についての解説は、[こちら](#)

クイズ 5. 学習後の評価（カークパトリックの 4 段階評価）

クイズ 5-①

Qx. 情報リテラシー教育の一環として、学生を対象にした情報探索に関する教材を作成した。この教育の評価方法としてカークパトリックの 4 段階評価を用いた場合、レベル 1～レベル 3 の実施例について、正しいと考えられるものをすべて選びなさい。

Ax.

□1.

- レベル 1 では、学習終了後の受講者に、教材を使ってみてどのように感じたかや満足度についてアンケート調査を行った。
- レベル 2 では、学習前後のテスト結果を比較し、知識やスキルが向上しているかどうか確認した。
- レベル 3 では、学習終了の半年後に、身近な受講者（図書館アルバイトの学生など）に、教材で得た知識やスキルはその後の学習や研究に生かされているかどうかインタビュー調査を行った。あわせて、関連する科目の担当教員に、学生の情報探索スキルについて、教材に書かれていることは実行できているかどうかインタビュー調査を行った。

□2.

- レベル 1 では、学習に入る前の受講者が、学習に必要な知識やスキルをすでに有しているかテストを行った。
- レベル 2 では、学習に入る前の受講者が、教材に書かれている内容をすでに知っているかどうかテストを行った。
- レベル 3 では、学習後の受講者が、教材の内容をどの程度理解したのかテストを行った。

□3.

- レベル 1 では、学習後の受講者が、情報探索の知識をどの程度身に付けたのかをテストした。
- レベル 2 では、学習後の受講者が、情報探索のスキルをどの程度身に付けたのかをテストした。
- レベル 3 では、学習後の受講者が、「今回学んだことを学習や研究に生かしたい」という態度をどの程度身に付けたのかをインタビュー調査した。

□4.

- レベル 1 では, 学習が終わった後の受講者に, 今回の学習体験の好感度についてアンケート調査を行った。
- レベル 2 では, 事後テストの結果を分析し, 受講者が必要な知識やスキルを身に付けたのか調査を行った。
- レベル 3 では, 今回実施した情報リテラシー教育が大学の組織目標にどのような影響を与えたのか考察した。

正解です。/不正解です。

1. ○

2. ×

前提テスト・事前テスト・事後テストの説明です。

3. ×

カークパトリックの 4 段階評価とは, 知識とスキルと態度をそれぞれ評価することではありません。

4. ×

レベル 1: 反応 (Reaction), レベル 2: 学習 (Learning), レベル 4: 結果 (Results)に関する説明です。

カークパトリックの 4 段階評価についての解説は, [こちら](#)

クイズ 5-②

Qx. 情報リテラシー教育の一環として、大学 1 年生を対象にした文献管理ツールの使い方に関する教材を作成した。この教育の評価方法としてカークパトリックの 4 段階評価を用いた場合、レベル 1～レベル 3 の実施例について、正しいと考えられるものをすべて選びなさい。

Ax.

□1.

- レベル 1 では、学習終了後の受講者に、(1)教材の分かりやすさ、(2)学習の量、(3)学習の満足度などに関するアンケート調査を行った。
- レベル 2 では、学習に取り組む前の受講者の知識やスキルの程度と事後テストの結果の分析を行った。
- レベル 3 では、学習が終わってから 2 ヶ月後に、受講者全員に、教材で学んだ文献管理ツールの利用頻度などに関するアンケート調査を行った。

□2.

- レベル 1 では、学習後の受講者の反応を調べた。具体的には、受講後に、教材の印象や学習の満足度を問うアンケート調査を実施した。
- レベル 2 では、学習後の受講者の行動がどのように変化したのかを調べた。具体的には、学習の 3 ヶ月後に、何名かの受講者にインタビュー調査を実施した。
- レベル 3 では、今回の教育の成果を俯瞰的に把握することにした。具体的には、文献管理ツールの導入費用、大学 1 年生の当該ツールの利用者数、教材を使って学習した人数(受講者数)、受講者のツール利用の習熟度などのデータを集めた。

□3.

- レベル 1 では、学習後の受講者の反応を定量的に調べるため、選択回答式のアンケート調査を実施した。
- レベル 2 では、学習後の受講者の反応を定性的に調べるため、自由記述欄を設けたアンケート調査を実施した。
- レベル 3 では、質問事項が予め決定しているアンケート調査だけでは調べきれない受講者の反応を確認するため、対面のインタビュー調査を行った。

□4.

- レベル 1 では, 図書館員による客観評価を行った。具体的には, 学習後の受講者にテストを行ってもらい, 必要な知識やスキルを身に付けることができたのか調査を行った。
- レベル 2 では, 受講者本人による自己評価を行ってもらった。具体的には, 受講者に, 学習以前と以後で知識やスキルがどのように変わったかを振り返ってもらい, 今回学んだ内容を今後どのように生かしていきたいか短い文章でまとめてもらった。
- レベル 3 では, 受講者である学生の指導教員に他己評価を行ってもらった。具体的には, 学習の数ヶ月後に, 学習の以前と以後で学生にどのような変化が見られたのか, 教員にインタビュー調査を行った。

正解です。/不正解です。

1. ○
2. ×
3. ×
4. ×

カークパトリックの 4 段階評価についての解説は, [こちら](#)

## クイズ 6. 注意 (Attention)

### クイズ 6-①

Qx. 次の学習意欲を高めるアイディアの内, ARCS モデルの「注意(Attention)」に関連すると考えられるものをすべて選びなさい。

Ax.

- 1. 教材の表紙の目立つ位置に, 学習の理由と学習の効果を短い文章で記載し, 学習者が 教材を手にとった時に「やってみたい」と興味を持ってもらえるようにする。
- 2. 教材は, 先生役と生徒役のキャラクターが対話しながら進行する形式にし, 生徒役の疑問やつまづきに答える構成とすることで, 学習者も生徒役のキャラクターと同様に「どうやって?」という疑問(好奇心)を抱けるように工夫する。
- 3. 学習目標, 教材内容, 練習問題, テストは整合性を保ち, 公平な評価を行う。

正解です。/不正解です。

- 1. ○ A-1 知覚的喚起
- 2. ○ A-2 探求心の喚起
- 3. × S-3 公平感

「注意(Attention)」についての解説は, [こちら](#)



クイズ 6-②

Qx. 次の学習意欲を高めるアイディアの内, ARCS モデルの「注意(Attention)」に関連すると考えられるものをすべて選びなさい。

Ax.

- 1. 重要な手順を説明するときは, 文章で長々と説明するのではなく, 最初に一目でわかるフローチャートを記載する。
- 2. キーワードは太字にし, 要点のまとめなど重要な箇所は枠で囲むなど, 単調なレイアウトは避ける。
- 3. 授業で学んだ内容(既有知識やスキル)と教材でこれから学ぶ内容がリンクするようにする。

正解です。/不正解です。

- 1. ○ A-1 知覚的喚起
- 2. ○ A-3 変化性
- 3. × R-3 親しみやすさ

「注意(Attention)」についての解説は, [こちら](#)

## クイズ 7. 関連性 (Relevance)

### クイズ 7-①

Qx. 次の学習意欲を高めるアイディアの内, ARCS モデルの「関連性(Relevance)」に関連すると考えられるものをすべて選びなさい。

Ax.

- 1. 教員や先輩にとっての「情報検索とは？」というコラム欄を設ける。教員からの「普段, このように情報検索して研究しています」というお話や, 先輩の「最初は何も分からなかったけれど, この教材を使ってノウハウを学び, 今は卒論を執筆しています」といった経験談を掲載する。
- 2. 授業で学んだ内容(既有知識やスキル)と教材でこれから学ぶ内容がリンクするようにする。
- 3. 教材の導入部分で学習目標を知らせる。さらに, 事後テストは事前テストと同じ形式であることを伝え, 最終的に何ができなければならないのか, ゴールを明確に示す。

正解です。/不正解です。

- 1. ○ R-2 動機との一致
- 2. ○ R-3 親しみやすさ
- 3. × C-1 学習要件

「関連性(Relevance)」についての解説は, [こちら](#)

クイズ 7-②

Qx. 次の学習意欲を高めるアイデアの内, ARCS モデルの「関連性(Relevance)」に関連すると考えられるものをすべて選びなさい。

Ax.

- 1. 教材の導入部分では, 学習の期待される効果(例えば, 「教材の内容をマスターすれば, レポートや論文執筆の際の情報収集に役立つ」など)を説明する。
- 2. 章ごとに中間目標を設け, 確認問題を掲載することで, 「何ができるようになったか」を学習者自身が都度確認, 意識できるようにする。
- 3. 事後テストに合格した場合は, 学習目標を達成したことを褒めるコメントが表示されるようにし, 学習者に今回の学習の価値を再認識してもらえるようにする。

正解です。/不正解です。

- 1. ○ R-1 目的指向性
- 2. × C-2 成功の機会
- 3. × S-2 外発的な報酬

「関連性(Relevance)」についての解説は, [こちら](#)

## クイズ 8. 自信 (Confidence)

### クイズ 8-①

Qx. 次の学習意欲を高めるアイディアの内, ARCS モデルの「自信 (Confidence)」に関連する  
と考えられるものをすべて選びなさい。

Ax.

- 1. 章ごとに中間目標を設け, 確認問題を掲載することで, 「何ができるようになったか」を学習  
者自身が都度確認, 意識できるようにする。
- 2. キーワードは太字にし, 要点のまとめなど重要な箇所は枠で囲むなど, 単調なレイアウトは  
避ける。
- 3. 教材の導入部分では, 学習の期待される効果 (例えば, 「教材の内容をマスターすれば, レ  
ポートや論文執筆の際の情報収集に役立つ」など) を説明する。

正解です。/不正解です。

- 1. ○ C-2 成功の機会
- 2. × A-3 変化性
- 3. × R-1 目的指向性

「自信 (Confidence)」についての解説は, [こちら](#)

クイズ 8-②

Qx. 次の学習意欲を高めるアイディアの内, ARCS モデルの「自信 (Confidence)」に関連する  
と考えられるものをすべて選びなさい。

Ax.

- 1. 教材の導入部分で学習目標を知らせる。さらに, 事後テストは事前テストと同じ形式であることを伝え, 最終的に何ができないか, ゴールを明確に示す。
- 2. 教材の各章の目標を確認して重点的に学習する箇所を定めたり, 確認テストを先に受験して解説パートを飛ばしたりするなど, 学習の進め方をある程度学習者に委ねる。
- 3. 教員と連携し, 教材を使って新たに学んだことをできるだけ早く別の場面(授業や論文執筆など)で使用する機会を与える。

正解です。/不正解です。

- 1. ○ C-1 学習要件
- 2. ○ C-3 個人的なコントロール
- 3. × S-1 内発的な強化

「自信 (Confidence)」についての解説は, [こちら](#)

## クイズ 9. 満足感 (Satisfaction)

### クイズ 9-①

Qx. 次の学習意欲を高めるアイディアの内, ARCS モデルの「満足感(Satisfaction)」に関連すると思われるものをすべて選びなさい。

Ax.

- 1. 教員と連携し, 教材を使って新たに学んだことをできるだけ早く別の場面(授業や論文執筆など)で使用する機会を与える。
- 2. 事後テストに合格した場合は, 学習目標を達成したことを褒めるコメントが表示されるようにし, 学習者に今回の学習の価値を再認識してもらえるようにする。
- 3. 教材の各章の目標を確認して重点的に学習する箇所を定めたり, 確認テストを先に受験して解説パートを飛ばしたりするなど, 学習の進め方をある程度学習者に委ねる。

正解です。/不正解です。

- 1. ○ S-1 内発的な強化
- 2. ○ S-2 外発的な報酬
- 3. × C-3 個人的なコントロール

「満足感(Satisfaction)」についての解説は, [こちら](#)

クイズ 9-②

Qx. 次の学習意欲を高めるアイディアの内, ARCS モデルの「満足感(Satisfaction)」に関連すると思われるものをすべて選びなさい。

Ax.

- 1. 学習目標, 教材内容, 練習問題, テストは整合性を保ち, 公平な評価を行う。
- 2. 教材は, 先生役と生徒役のキャラクターが対話しながら進行する形式にし, 生徒役の疑問やつまずきに答える構成とすることで, 学習者も生徒役のキャラクターと同様に「どうやって?」という疑問(好奇心)を抱けるように工夫する。
- 3. 教員や先輩にとっての「情報検索とは?」というコラム欄を設ける。教員からの「普段, このように情報検索して研究しています」というお話や, 先輩の「最初は何も分からなかったけれど, この教材を使ってノウハウを学び, 今は卒論を執筆しています」といった経験談を掲載する。

正解です。/不正解です。

- 1. ○ S-3 公平感
- 2. × A-2 探求心の喚起
- 3. × R-2 動機との一致

「満足感(Satisfaction)」についての解説は, [こちら](#)